

現行の観光立国推進基本計画の目標について

【概要版】

現行基本計画の目標達成状況

- 現行基本計画の7つの目標の2019年時点での達成状況は、「**目標1 国内旅行消費額**」「**目標7 日本人の海外旅行者数**」は達成、その他はまだ達成していない状況。

目標			2020年目標	2019年実績	(参考) 2015年実績	
1	国内旅行消費額		21兆円	21.9兆円	20.4兆円	
	①	国内宿泊観光旅行の年間平均宿泊数	全年齢	2.5泊	2.31泊	2.27泊
			若年層	3泊	3.61泊	3.18泊
	②	国内宿泊観光旅行を行わない国民の割合	全年齢	40%程度	48.0%	46.8%
			若年層	40%程度	39.7%	40.2%
	③	地方部における日本人延べ宿泊者数		3億1000万人泊	3億337万人泊	2億9447万人泊
地方部における国内旅行消費額（旅行中支出のみ）		12兆円	11.6兆円	10.6兆円		
2	訪日外国人旅行者数		4000万人	3188万人	1974万人	
3	訪日外国人旅行消費額		8兆円	4.8兆円	3.5兆円	
4	訪日外国人旅行者に占めるリピーター数		2400万人	2047万人	1159万人	
	訪日外国人旅行者の再訪意向		2015年水準維持	94.2%	93.3%	
5	訪日外国人旅行者の地方部における延べ宿泊者数		7000万人泊	4309万人泊	2514万人泊	
	地方割合		50%	37.3%	38.3%	
6	アジア主要国における国際会議の開催件数に占める割合		アジア順位	1位	2位	1位
			主要国シェア	30%	30.4%	26.1%
	MICE等のビジネス目的の訪日外国人旅行者数			650万人	437万人	403万人
7	日本人の海外旅行者数		2000万人	2008万人	1621万人	
	日本人の若年層の海外旅行者数			350万人	380万人	254万人

各目標についての分析概要

[目標1] 国内旅行消費額

【現状】

- 2016年時点でいったん達成、2019年に2018年の落ち込みを取り戻した。
- 延べ旅行者数には大きな変化はないが、宿泊旅行の消費額が増加。

【要因】

- 20代、40代、50代の宿泊旅行者数が回復傾向。
- 有識者によれば、有給休暇の取得しやすさと所得、就職状況などの好転も影響。
- 30代、40代の宿泊旅行消費額単価が上昇。
- 質の高い宿泊施設の選好が進んでいることが想定される。

【今後の方向性】

- 国内旅行振興にあたって、休暇取得の推進が有効。
- 旅行の形態・ニーズに合わせた商品造成が必要。

[目標2] 訪日外国人旅行者数

【現状】

- インバウンドの伸び率が落ち着いてきており、日本選択率は、香港・台湾・タイで高止まりの傾向。

【要因】

- 東アジア・東南アジアでの日本選択率は、航空アクセスの改善とあいまって上昇。
- 日本選択率は、中国・欧米豪などで増加傾向。

【今後の方向性】

- 航空アクセスのさらなる改善。
- 欧米豪市場等の取り込みにあたっては、市場が嗜好するコンテンツの整備が必要。

[目標3] 訪日外国人旅行消費額

【現状】

- 訪日外国人旅行者数の未達（達成状況80%）に加え、旅行消費額単価の未達（達成状況75%）の影響が大きく、目標に達していない。

【要因】

- アジア市場が全般的に、単価が低下傾向（特にタイは平均泊数も低下）。
- 日本、米国、豪州における外国人観光客消費額を比較すると、日本は米国と豪州と比べて、「娯楽等サービス費」（エンターテインメント等）の構成比が低くなっている。

【今後の方向性】

- 滞在日数の増加、コンテンツの充実と富裕層市場の取り込みが必要。

各目標についての分析概要

【目標4】訪日外国人旅行者に占めるリピーター数

【現状】

- リピーター数は目標に届かないが、リピーター率は、2015年から微増して64.2%（2019年）となった。

【要因】

- 東アジアについては、リピーター率が上昇。
- 近年日本選択率が高まっている欧米豪ではリピーター率が下がっている（新規訪日旅行者が増えているため）。

【今後の方向性】

- 市場の成熟度に応じたリピーター率の確保が必要。

【目標5】訪日外国人旅行者の地方部における延べ宿泊者数

【現状】

- 地方部における延べ宿泊者数は、東アジア諸国を中心に着実に増加しているが、目標未達。

【要因】

- 平均泊数は2015年以降、横ばい。
- 地方空港（新千歳・福岡・那覇以外）の国際線座席数は微増。

【今後の方向性】

- 海外から地方部へのアクセス性の向上や、市場ニーズに合わせた魅力ある観光地の整備が必要。

【目標6】アジア主要国における国際会議の開催件数に占める割合

【現状】

- 国際会議開催件数は、堅調な伸びを続けたが、2019年に中国が日本を上回った。

【要因】

- 東京、京都、神戸が大きく伸長したが、地方都市も伸長。

【今後の方向性】

- 地方都市にもチャンスはあり、JNTOと自治体が連携して国際会議誘致に取り組む必要。

【目標7】日本人の海外旅行者数

【現状】

- 着実に実績を伸ばし、2019年で目標を達成。特に若年層（10代・20代）が大きく伸びた。

【要因】

- 2015年からほぼ全ての年代でパスポート発行割合が増加。特に若年層（20代）で大きく増加。

【今後の方向性】

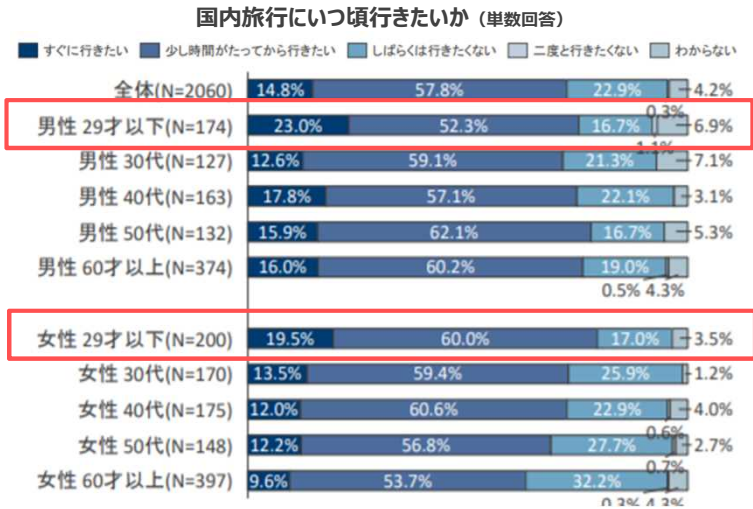
- パスポート発行割合は全年代で向上中だが、低いパスポート保有率の全体的な底上げが必要。

直近の観光動向

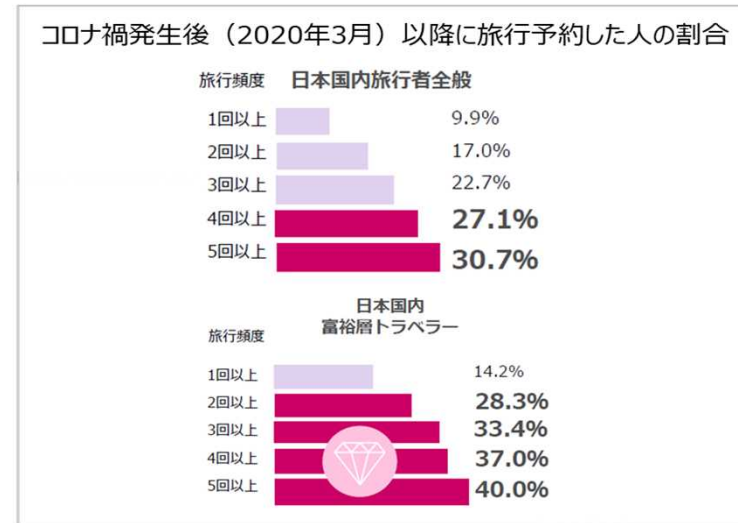
直近の観光動向（国内旅行）

- 国内旅行では、若者や旅好き・富裕層から観光需要が回復する可能性。
- 観光地としては、人混みが避けられる自然が多い地域が選好される傾向。

▶ 若年層の旅行需要から回復する可能性【国内旅行】



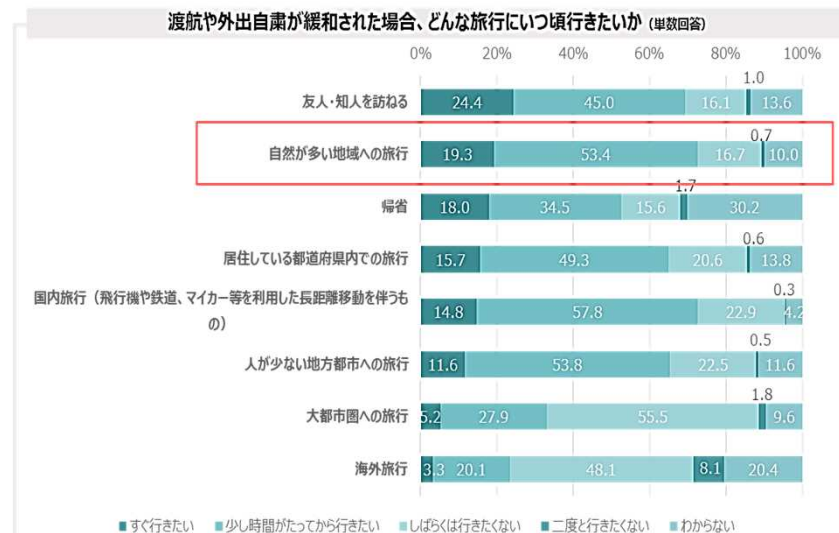
▶ 旅好きと富裕層の需要から回復する可能性【国内旅行】



出典) ADARA, 最新国内旅行市場分析レポート: COVID-19による日本国内のオンライン旅行購買行動の変化

出典) JTB・JTB総合研究所 新型コロナウイルス感染拡大による、暮らしや心の変化及び旅行再開に向けての意識調査2020

▶ 自然が多い地域が人気【国内旅行】



出典) JTB・JTB総合研究所 新型コロナウイルス感染拡大による、暮らしや心の変化及び旅行再開に向けての意識調査2020

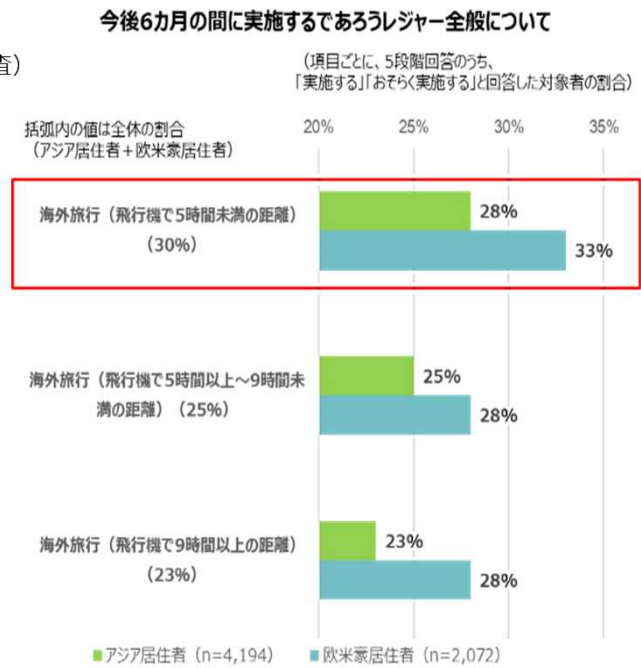
直近の観光動向（インバウンド・アウトバウンド）

- 観光地としては、人混みが避けられる自然が多い地域やアクティビティが選好される。
- アジア・欧米豪居住者は、近い距離の海外旅行を選好。
- 我が国のアウトバウンドについては、若年層から回復する可能性。

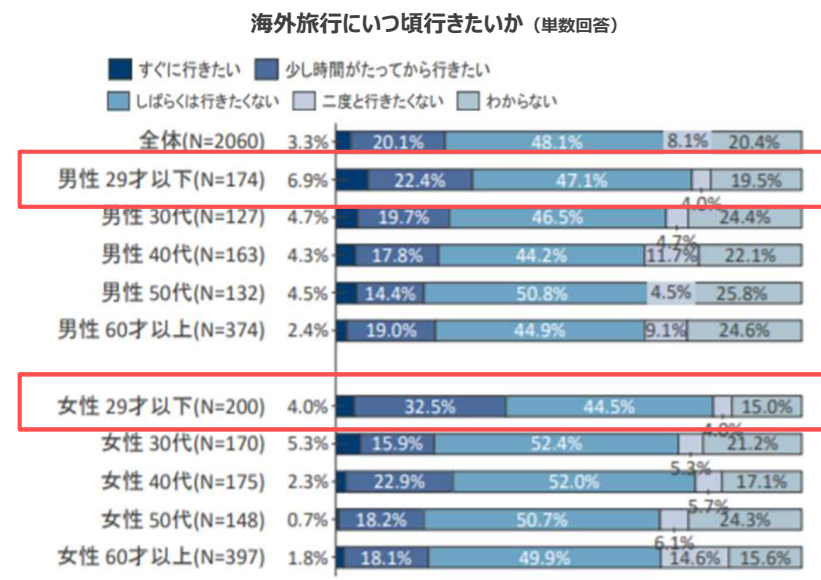
▶ 自然が多い地域が人気【インバウンド】



▶ 短距離海外旅行需要から回復見込み【インバウンド】



▶ 若年層の旅行需要から回復する可能性【アウトバウンド】



出典) Tripadvisor, beyond COVID-19: The Road to Recovery for the Travel Industry

出典) 日本政策投資銀行 (DBJ) ・日本交通公社 (JTBF) , DBJ ・JTBF アジア・欧米豪訪日外国人旅行者の意向調査 (2020年度新型コロナ影響度特別調査)

出典) JTB・JTB総合研究所 新型コロナウイルス感染拡大による、暮らしや心の変化及び旅行再開に向けての意識調査2020